

「100万人のキャンドルナイト」のススメ

マエキタ ミヤコ

★ Written by Miyako maekita ★

★ みなさんは、冬至や夏至の「100万人のキャンドルナイト」を知っていますか。

さらにいま地球が大変なことになっているのをご存知ですか。30年ほど前から地球では生態系のくずれが心配されています。人間のいとなみが原因で。たくさんの動物たちが死んだり、木が枯れたり、作物がとれなくなったり。石油の燃やし過ぎ、化学物質の作り過ぎ、使い過ぎ、流れ出しがさまざまな不都合を引き起こしています。貿易のし過ぎが貧困のタネになり、貧困が生態系のくずれのタネになる、というマイナスのループがたくさん、地球のあちこちで渦巻いています。人類の未来は、そのよくないループに巻き込まれ、からめとられそうです。なんとかふんばって、からめとられないようにしなくっちゃ。

「100万人のキャンドルナイト」は、そんなよくないループからなんとか人類まるごと上手に脱出して、もとのように安心して住めるようになりたい、明るい未来をともに生きたいと願う人々の連帯から始まりました。

壮大な願いと小さくて手が届く目の前の楽しみをいっぺんにつなげようとする「100万人のキャンドルナイト」は、まず冬至と夏至の夜8時から10時まで、みんなで一斉に、「でんきを消してスローな夜を」と呼びかけます。何をやってもいいのです。キャンドルのあかりで絵本を子どもたちに読んであげたり、アロマキャンドルを浮かべたお風呂にゆっくり入ってみたり、夫婦でワインをあけてキャンドルディナーをしたり、ろうそくのあかりで音楽を楽しむコンサートをしたり。原発反対の集まりをしてみたり、原発推進の集まりをしてみたり、原発をどうしたらいいかの話し合いの場を開催してみたり、何でもいいのです。8時に一斉にでんきを消すみなさんたちが主催者です。呼びかけには企業も協力してくれています。「100万人のキャンドルナイト」ホームページやお知らせツールを集中的に作り海外へも呼びかけていく年間の運営をサポートしてくれるキャンドルホルダーというしくみもあります。年間10万円で現在26社の企業がサポートしてくださっています。

みんなで一斉にでんきを消してスローな夜を、というのは、一切のでんきを消しましょう、とか、全員ですっかり同じことをしましょう、というわけではありません。同じなのは「同時刻」ということと「闇の共有を楽しむ」ということ。それ以外はまちまちでOK。「一切の」や「一様に」ではなく、この「一斉に」と

いうのが100万人のキャンドルナイトのミソ、ニッポンの多様性の練習として優れて

マエキタ ミヤコ

「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表・幹事、「ほっとけない世界のまじしさ」キャンペーン実行委員。上智大学、立教大学非常勤講師。1963年東京生まれ。コピーライター、クリエイティブディレクターとして、97年よりNGOの広告に取り組み、02年に広告メディアクリエイティブ[サステナ]を設立。『エココロ』を通して、日々、世の中をエコシフトさせるために奔走中。

があります。でもそれは「思い込み」なのです。多様性を認め、異論を認めた上で、みんなで一体感を持って楽しくなることは可能なのです。「排他的にならなくても人類の未来は明るくできる」という「100万人のキャンドルナイト」のスピリットが表れています。ぜひ、みなさんもお家族と、お友達と、同僚と、そしてひとりでも、キャンドルナイトをやってみてください。慣れてきたらぜひ、冬至や夏至以外でもどうぞ。100万人のキャンドルナイトは、いつやってもいいのです。



大阪の西梅田で実施された「100万人のキャンドルナイト@オオサカシティ」(2007年12月5日)